RS ウィルスワクチン（ アブリスボ）

アブリスボは、妊娠中（特に 28〜36 週頃）の妊婦に接種し、胎盤を通じて赤ちゃんへ免疫（抗体）を移行させることで、生後 6 ヶ月までの RS ウイルスによる重症下気道感染症を防ぐ「母子免疫ワクチン」です。
2024 年 5 月にファイザー製薬から発売され、2026 年 4 月からは一部公費負担により接種可能となります。

アブリスボの概要・特徴

目的:	新生児・乳児の RS ウイルス感染症の重症化予防。
接種対象と時期:	妊娠 24〜36 週の妊婦（28〜36 週が推奨）。
効果:	臨床試験で出生後しばらくの間、RS ウイルスに対する重症予防効果が高い（約 80%）と報告されている。
接種方法:	筋肉内に 1 回接種。
副作用:	妊婦の接種部位の痛み、赤み、腫れ、発熱などが一般的で、多くは軽度。
背景:	2026 年 4 月から接種可能となり、公費で約 3 万円の補助が受けられます。

注意点
接種後 14 日以内に出生した乳児には、抗体移行が十分でない可能性があります。